

2. 「平成28年度技術講習会」開催報告

平成28年11月9日(水) 吉野石膏(株)にて、平成28年度技術講習会を開催いたしました。今回も多数の参加いただきまして誠にありがとうございました。

今回の講習会は『集合住宅の音に関する紛争予防の基礎知識』という題目で、集合住宅の供給の流れである企画・設計・施工・販売・入居を対象に、入居後、居住者からの音に関する苦情やトラブルの発生防止、対策という視点から、トラブルの内容・原因・責任・対応方法について、実際の事例に基づいた対応方法などを第一線の研究者・技術者の講師陣の方々に講義・解説をいただきました。

また、「集合住宅の音に関する紛争予防の基礎知識」(一般社団法人日本建築学会2016年7月出版)をテキストと使用いたしました。本書の内容は、音に関するトラブルの発生原因や予防方法を理解してもらい、集合住宅内の音環境に関する苦情やトラブルの未然防止、紛争に至ってしまった場合の早期解決に資することを目的として刊行されました。特に建物の音響性能について、設計目標としての設定性能と設計目標を達成するための技術的対応方法、消費者(入居予定者)・居住者の要求、設計性能値の確認方法、性能値と生活実感との対応方法等について最新のデータ、事例とともに解説されている書籍です。

【テーマと講師】

Part 1 (基本事項と性能評価・表示、設計目標値設定上の留意点)

講師：井上勝夫氏(日本大学)

1.1 はじめに

本講習会の目的、内容構成

1.2 基本事項と性能評価表示

1.3 設計目標値設定上の留意点



Part 2 (遮音設計方法、音響性能の検証方法、目標値設定・設計・施工・監理上の問題)

講師：大川平一郎氏(住環境総合研究所)

2.1 音響性能目標値に対する遮音設計方法

2.2 音響性能の検証方法

2.3 音響性能に関する目標



Part 3 (苦情・紛争発生の対応)

講師：中澤真司氏(鉄建建設)

3.1 音の不具合に関する電話相談

3.2 苦情発生の要因と対応

透過音(外壁、界壁)、床衝撃音、開口衝撃音、設備騒音など



Part 4 (苦情の発生時の測定と訴訟事例)

講師：河原塚透氏(大成建設)

4.1 苦情発生に伴う音響測定時の留意点

4.2 訴訟事例の解説



【各講師の講義内容より】

井上教授からは、まず、集合住宅において、苦情やトラブルの対象となる音源の種類と特徴についての説明を頂きました。

つぎに、集合住宅の音響性能の評価基準の説明と、居住者アンケート結果からその評価尺度・遮音性能基準と生活実感との対応が非常に良いことを解説頂きました。なお、居住者は「空間内の音の大小」を性能として判断しやすいので、「部位の遮断性能」との関係や表示方法について十分に説明することは、住宅購入者が性能を理解し、納得して購入するにあたって特に重要であることをご教授頂きました。



大川氏からは、屋外騒音、内部騒音源、床衝撃音、地下軌道固体音、共用・専有設備機器発生音といった音源別に、遮音設計に必要とされる測定量とその把握方法における留意点、予測計算方法等の説明がありました。さらに、集合住宅における各部位に対する音響性能の検証方法ついて、測定方法とその性能の評価についての詳細な解説をいただきました。

設計目標値を設定するにあたって、設計者、施工者、販売者等の責任や、適正なデータを提供する材料メーカーや機械・設備メーカーの必要性について重要であることを学びました。

中澤氏からは、(公財)住宅リフォーム・紛争処理支援センターで受け付けられた電話相談における音の不具合の種類や発生部位などを、事例をもとに解説いただきました。そして、苦情の申し立てがあった場合の対応方法において、対象音別の要因、解決事例を現場における測定データとともに説明して頂き、より理解を深めることができました。

河原塚氏からは、苦情発生に伴う音響測定時の留意点として、苦情に対する適切な対応は、居住者の視点に立った作業である苦情の聞き取り調査が重要であり、測定機器による測定実施の前に、自分の聴覚による音源の確認作業が苦情を早期に解決する手段であることと説明いただきました。その後解説のあった実際の訴訟事例については、普段接することの少ない内容が集約されており受講者にとって参考になるものと思われました。

今回の講習会におきましても、充実した講義内容と皆様のご参加を期待しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。